



学園記念ホール
ステンドグラス



Information From

Nichi-On

since 1903

—創立 104 周年—

The Campus News

1 月号
2007. 第 125 号
編集発行 学園事務局

日本音楽学校 幼児教育科 学生向情報



謹賀新年



「アヒルの足」

学校長 小林 志郎



明けましておめでとうございます。

平成 19 年、西暦 2007 年を迎えて、私は次のようなことを考えました。

まず、どうやったら学生諸君がもっと幸せになれるか。充実した学生生活を送れるか。優れた幼児教育者として社会に進出できるか。そして日本音楽学校の卒業生が幼児教育の世界で優れた仕事を達成し、社会に貢献できるようになれるか。

同じように、どうやったら日本音楽学校の教職員がもっと幸せになれるか。納得できる教育を生き生きと行い、教育者としての充足感を味わうことができるか。社会に貢献しているという評価をどうやったら獲得できるか。学校の授業を行なうことに全力を傾注しつつ、社会のニーズにも応える教育・研究のボランティアの機会をどうやったら作り出すことができるか。学校の枠の中で満足しないで、幼児教育全体を見る目を養うにはどうやったらよいか。

この話を展開する前に、共通理解を作っておく必要があります。みなさんに社会の文化、芸術、教育、政治、経済などが大変速いテンポで動いていると思いますか。私は社会の変化に追いつくのに苦労している一人です。特に、日本音楽学校を日本の教育の変化に即応させるために全力で走らなければついていけません。

ええ、そんなに速いテンポで動いていますかと、みなさんは不思議に思うでしょう。みなさんに見える教育は、ゆったりと泳ぐアヒルのようなものです。水面上のアヒルは優雅に泳いでいますが、水面下の無骨な足は恐ろしい勢いで水をかいています。しかし、その猛運動を水面上には見せない。もう一つの例えを上げるならば、氷山に似ています。海上に見える部分は氷山の一角であって、海面下に何倍もの大きな氷が沈んでいます。見える部分を支える見えない部分があるのが教育という仕事です。教育は氷山のように絶えず、日々、崩落したり形を変えたりしていますが、多くの場合海面下で受け止め、安定した姿かたちをキープしているのです。

アヒルの足と海面下の氷山に例えられる教育とは、実に曖昧であって、形に出来ない知恵のようなものです。法律や制度による改変、社会のニーズによる改変、幼稚園・保育園・施設等のニーズ内容の変化による改変などに対応するのも大変ですが、これに振り回されているようでは、日本音楽学校丸という船は航海が出来ません。いつも冒頭に書いたような曖昧模糊としたテーマを考え、あるときひらめいた改善をみんなで試してみるのです。ひらめきは火打石の火花のごく小さいものです。その火花をどうやって消えることのない炎に成長させるかが腕の見せ所であり、センスがいかどうかにかかっています。

「タバコを吸わない文化の導入」に始まって、「保育研究発表会の改善」、「ホーム・ページ (ウェブ・サイト)」、「TA 制度」、「ミニッツ・ペーパーや授業評価」、「AO 入試」、「セメスター実習」、「親子サロン」、「幼児教育実践総合センター」、「海外姉妹園・ピンジャラ保育園」、「学生アドバイス・オフィス」、「出欠席のコンピュータ化」、「補習授業」、「ジョブ・ハンティング」などは過去 5 年間で考え、導入し、制度として定着させてきたものです。6 年前に卒業した諸君の先輩はこれらのことをまったく知りません。皆さんにとってはあつて当然のことですが、こういう制度や授業がない日本音楽学校を想像してみてください。





これでもまだ十分ではない。いや「他の人・学校は気づいていないが、社会の要求が変わりつつある。近い将来、保育者に求められる資質・能力の中にセラピーは大きな存在となるだろう」と考え、今年度からセラピーの学習をカリキュラムに導入しました。少なくとも諸君が中心となって活躍するところには間違いなくセラピーは大切な機能を持つようになるでしょう。

1年生の保育士コースの学生は昨年夏休みに、ホーガン先生の「美術セラピー」のワークショップを受講しました。私たちはみなさんが10年後になって、そうそう「美術セラピー」という「玉手箱・パンドラの箱」のようなものがあつたことを思い起こしてほしいと願っています。その箱は積極的に開けてかまわないんだということも覚えておいてください。今年の7月には、「音楽セラピー」を行ないます。担当はグラハム・ディッカーソン先生です。ディッカーソン先生は過去にはダービー大学で教えていらっしゃいましたが、現在はヨーロッパ各地でワークショップや講演等を行なっています。この授業もまた諸君が卒業した後の「玉手箱・パンドラの箱」として卒業の時持ち帰ってほしいからです。

ここまで論が進んで、ようやく文頭の話に戻る準備が出来ました。「どうやったら学生諸君がもっと幸せになれるか。充実した学生生活を送れるか。優れた幼児教育者として社会に進出できるか。そして日本音楽学校の卒業生が幼児教育の世界で優れた仕事を達成し、社会に貢献できるようになれるか。」を毎年考えては、小さな一つ一つを積み重ねてきたのです。考えたことは何百もありましたが、実現できるのはごくわずかです。学校はあれこれ毎年考えているのだと理解してください。そしてそのために校長も少しは役立っているのだと思ってください。

私がぜひ知ってほしいのは、アイデアやプランが実現できた理由です。何遍も言いますが、まず教職員が優秀であったこと、二つ目に学生が耳を傾ける力と理解する力があつたからです。学生諸君の中に、日本音楽学校の教職員はそんなに優秀かなと思う人がいたら、その人は大ばか者です。中には教えるのが不器用だったり、感性が違う教師がいるかも知れませんが、いやいるでしょう。ところが、そういう教師ほど学生の人間としての成長（成績ではありません）を考えています。日本音楽学校の教員はすべてが評価される仕組みの中で授業を行なっています。学校外からも、校長からも、同業者からもいつも見られているのです。そういう厳しい評価というプレッシャーの中で現行の授業を行なうのはやはり優秀と言わざるをえません。

私たちは、学生諸君の人格と資質を信じなければなりません。不信に陥った時は教育の荒廃がすぐに始まります。私たちに求められているのは、諸君の人格と資質に対する強い信奉と、それを維持するための勇気ある決断力であろうと思います。教員は諸君を信じている証を見せなければなりません。今年はいっそう成績評価は公正で、厳格に行なう方針です。安直な思いやりがどれほど不公平で、かつ青年をダメにしているか言を待ちません。

私は他所の学校へ行って、自慢することは何か。それは学生による授業評価が95%正確で、真面目に行なわれていることです。5年間も続いています。教職員もみなさんもそれが当たり前と思うでしょうが、どんでもありません。これは「凄いこと」なんです。

幕の内の間、数限りないほどのアイデアを考えました。そのうちに豊熟し、姿を現すことを信じて待っています。優秀な教職員と学生に支えられて日本音楽学校の2007年はきっと飛躍の年になるでしょう。飛躍させなければなりません。そのために、私たちは必死にアヒルの足を動かし続けなければなりません。2年生は間もなく卒業です。仕事をゲットできましたか。遅れている方はもう一踏ん張りしなさい。1年生は半分の道を歩きました。もう1年いっしょに足を動かさうではありませんか。



《1~3月の行事予定》

1年生

- 1 / 9 (火) 授業開始
- 16 (火) 実習刈エーション(保幼)
- 22 (月) ~ 26 (金) 後期試験
- 29 (月) ~ 2 / 2 (金) 追再試期間
- 2 / 5 (月) ~ 9 (金) 幼稚園実習(保幼)
- 15 (木) ~ 16 (金) 幼稚園実習事後指導日(保幼)
- 19 (月) ~ 3 / 1 (木) 保育園実習(保幼)
- 3 / 5 (月) ~ 6 (火) 保育園実習事後指導日(保幼)
- 3 / 7 (水) 卒業式リハーサル
- 3 / 8 (木) 卒業式

2年生

- 1 / 9 (火) 授業開始
- 22 (月) ~ 26 (金) 後期試験
- 29 (月) ~ 2 / 2 (金) 追再試期間
- 3 / 7 (水) 卒業式リハーサル
- 3 / 8 (木) 卒業式

行事予定は追加・変更になることがありますので学内掲示等に注意して下さい。